

誓いのコイン

ミュージカル(二幕、休憩一回)
プログラム



坊っちゃん劇場モスクワ公演

2012年9月14日 (金)
19時開演



マールイ劇場別館

— Moscow, Bolshaya Ordynka st. 69 —

主催:

日露青年交流センター
在ロシア日本国大使館

運営協力:



後援:

ロシア連邦文化省
 モスクワ市政府

協賛:



『日本の秋2012』フェスティバル オープニング

ミュージカル『誓いのコイン』ロシア公演ご挨拶

ご来場の皆様！

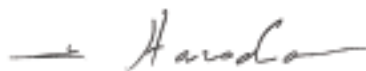
本日は、ようこそお越しくださいました。

はじめに、愛媛県の坊ちゃん劇場が、ここモスクワ及びオレンブルグでミュージカル『誓いのコイン』を公演することになりましたことを心からお喜び申し上げますとともに、公演実現のために尽力された日露の関係者の皆様に感謝申し上げます。

坊ちゃん劇場は、愛媛・四国・瀬戸内の歴史的・文化的伝統を舞台芸術で表現し、ミュージカル役者の誕生する「まちづくり」をめざして、2006年に活動を開始しました。今回、同劇場にとって初の海外公演が実現し、また、演目も日露戦時下の松山におけるロシア兵と日本人の心温まる交流という、『日本の秋 2012』のオープニングに相応しい特別な公演となったことを大変嬉しく思います。

日露戦争時、松山は延べ6000人とも言われるロシア兵捕虜を受け入れました。捕虜は、政府の方針や地元の歓待によって厚遇され、市内の自由散策や観劇、道後温泉での入浴や自転車競技大会への参加等を通じて、当時、約3万人に過ぎなかった松山市民と捕虜との間に活発な交流が生まれました。松山で生涯を終えた捕虜たちの墓地「ロシア人墓地」は、今でも市民らによる清掃活動が行われ、1994年にはロシアの有志から日露友好の証として、ボイスマン大佐の胸像が製作・寄贈されました。多くの観光客が訪れるボイスマン大佐の胸像の土台には、「日露友好の架け橋」と刻まれています。

今回皆様に披露されるミュージカルは、2010年、松山城二之丸の井戸跡から発見された100年前のロシアの10ルーブル金貨にロシア人と日本人女性の名前が刻まれていたことから生まれました。国と国、人と人を隔てる壁を越えるというこのミュージカルのテーマのように、日露両国の友好親善関係が益々発展することを期待して、ご挨拶といたします。有難うございました。



在ロシア日本国特命全権大使
原田 親仁



道後温泉本館で寛ぐロシア人将校。



ロシア兵捕虜を手術する日本の医師と看護婦。



ロシア人捕虜を励まそうと市民有志や地元企業などが道後公園で開催した日露交流の自転車競技大会。同大会のクライマックスは日露対抗レースだったという。

あらすじ

<一幕>

1904年3月、日露戦争が始まって1ヶ月あまり、初めてロシア人捕虜が到着する日。松山市民は不安と嫌悪で大きく揺れている。

そんな中、日本赤十字社愛媛県支部の看護婦達は、「どこの国の方であっても誠心誠意全力で看護しましょう」と誓い合う。

主人公の田島サチは、ロシアに憧れながらも出征していった兄を思い、母親の反対を押し切って、負傷した捕虜を受け入れる病院の篤志看護婦に志願する。サチは、兄に教わったロシア語が話せるのだった。

4ヶ月後、暑い夏に苛立つ捕虜達の、祖国に帰りたい想いは募る。目を負傷した青年将校ニコライは、敵国日本人への憎しみで心を閉ざしていた。脱走を試みるが、そこで命を助けてくれた村人のやさしさに触れて病院に戻る。そして、サチの心からの説得で、手術を受ける決心をする。

一方、買い物や温泉への外出が許された捕虜のおかげで、日本各地からロシア人相手の商人が集まり、松山の街は活気づいていた。捕虜たちも松山の人たちの「おもてなし」に、次第に心を開くようになっていく。

ニコライの目の手術は成功した。サチの喜びの涙を見て、ニコライは彼女の想いに気づき、二人に愛が芽生える。だが、日本軍優勢の知らせに酔う市民の提灯行列が、捕虜達を苦しめる。そんな中、サチとニコライは「国と国をへだてる国境のために争いが起きる。でも、心と心をへだてる心の国境は越えられる」と、捕虜と松山の人たちの新年会を提案する。

<二幕>

1905年1月の新年会。看護婦達は松山の民謡「伊予漫才」を、ロシア兵達は「トロイカ」「黒い瞳」等を歌い踊って共に楽しむ。サチとニコライも手を取り合って踊る。その時、祝砲と市民の歓声が響く。旅順が、日本軍の手に落ちたのだ。絶望したニコライはサチを抱きしめる。

半年後、1905年6月、愛を深めたニコライとサチは「戦争が終わったら、ロシアと日本の架け橋になりたい」と、共に歩む将来を夢みる。

戦争は終わり、捕虜たちは帰国できることになった。一緒にロシアに行きたいと言う二人の願いは周囲の人に理解してもらえない。折しもロシアは革命の嵐が吹き荒れていた。レオノフ大佐はニコライに、すぐに帰国して祖国を救えと言う。ニコライはロシアに平和が戻ったら必ず迎えに来るとサチに約束して、一人で帰国することを決意する。

帰国の日、二人の名前を刻んだコインを手し、サチとニコライは再会を誓う。「必ず一緒に、日本とロシアの架け橋になる夢を叶えよう」と。

それから半年、ニコライからの連絡は途絶えたままだった。それでもサチは信じて待ち続けるが、ある日・・・。

- 休憩(15分) -

作・作詞

演出

作曲

編曲

振付

装置

照明

音響

衣装

ヘア・メイク

小道具

高橋 知伽江

栗城 宏

深沢 桂子

玉麻 尚一

尚 すみれ

土屋 茂昭

大島 祐夫

福地 達朗

山田 靖子

我妻 淳子

平野 忍

キャスト



篤志看護婦 田島サチ
滝 香織



ロシア人捕虜 ニコライ
四宮 貴久



海軍大佐 レオノフ
中山 城治



看護婦 マキ
佐伯 静香



サチの母親 田島ミチ
加藤 富子



捕虜監督将校 石浦大尉
柳原 悠二郎

タケバナカ
(日本人女性の名前)



コステンコ
(ロシア人男性の名前)

2010年1月伊予松山城
の井戸跡で見つかった
コイン



衛戍病院婦長 高杉トシ
山下 清美



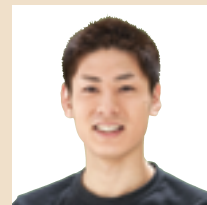
ロシア人捕虜 アンドレイ
佐藤 靖朗



ロシア人捕虜 ビョートル
平野 淳



ロシア人捕虜 セルゲイ
近藤 誠二



ロシア人捕虜 ボリス
宇高 海渡



看護婦 ヤエ
鳥潟 知沙



看護婦 ソノ
熊坂 理恵子